

金融教育プログラムで東証アローズ・野村證券を見学

高校2・3年の生徒が、7月30日(火)に東証アローズと野村證券大手町ビル(ディーリングルーム)を見学しました。

東証アローズは国内最大の証券取引所であり、ニューヨーク証券取引所やロンドン証券取引所などと共に世界経済の中核としての役目を果たしています。また、日本の金融取引市場情報をリアルタイムで発信し、上場企業への情報開示をサポートする業務を担っています。株式投資体験コーナーでは、株式の投資シミュレーションを体験することができ、真剣に考え取り組んでいました。

野村證券は日本を代表する証券会社として、資本市場を通じて、個人投資家をはじめ、さまざまな企業に資産運用・資金調達などのサービスを提供しています。

金融教育プログラムとして、生徒たちは野村證券内のトレーディングフロアを見学しました。トレーディングフロアとは、インターネットまたは電話で株式や債券の取引を行う場所を指します。その後、特別講話として「アジアマーケットと日本」をテーマに香港やシンガポール、インドと日本の市場の特色や相違についてお話をいただきました。

生徒たちは、株式投資や投資信託など、様々な金融商品の特徴を学ぶ大切さを実感していたようです。

